

2025 年 News Letter

1.委員会活動

- ① 国土・未来プロジェクト研究会
- ② 国土創生プロジェクト委員会
- ③ 広域地域経営委員会
- ④ 水循環委員会
- ⑤ 防災委員会
- ⑥ 海洋資源事業化委員会
- ⑦ 首都圏グローバルハブ空港研究会
- ⑧ 水素サプライチェーン整備委員会
- ⑨ 環境委員会（ブルーカーボン研究会）
- ⑩ 林業復活・地域創生を推進する国民会議
- ⑪ 森林再生事業化委員会
- ⑫ 複合観光事業研究会
- ⑬ 日本・ミャンマー産業交流検討委員会
- ⑭ 関西委員会
- ⑮ 中部委員会

2.オンライン講演会

- ① 第 20 回 (2025.3)
- ② 第 21 回 (2025.5)
- ③ 第 22 回 (2025.6)
- ④ 第 23 回 (2025.9)
- ⑤ 第 24 回 (2025.10)
- ⑥ 第 25 回 (2025.12)

3.大学連携講義

- ① 筑波大学
- ② 神戸大学

4.その他

- ① 新年賀詞交換会 (2025.1)
- ② フューチャー21（若手勉強会）(2025.9)
- ③ SNS 開設

1.委員会活動

昨年に引き続き、シンポジウムの開催や、提言書作成・公表に向けた討議等、全ての委員会で積極的な活動を展開しました。

①国土・未来プロジェクト研究会

中村最高顧問（JAPIC 副会長 東京都市大学名誉総長）

藤本委員長（パシフィックコンサルタンツ 特別顧問）



中村最高顧問

藤本委員長

【国土造り 12 プロジェクト】

25年1月に高松で瀬戸内クルーズシンポジウムを開催。4月25日に小倉において下関北九州道路シンポジウムを開催し、関門エリア両市と共に早期実現に向けた働きかけを行いました。他プロジェクトも地域との意見交換を重ねています。今後もプロジェクトの早期実現の機運醸成を図るべく、各地でのシンポ開催、地元行政・経済界との連携に加え、関係先への要望を重ねていきます。



瀬戸内クルーズシンポジウム
(香川県 池田知事)

●シンポジウム開催

25年1月：瀬戸内クルーズ（香川県高松市）

25年3月：欧州視察報告会（東京）

25年4月：下関北九州道路（北九州市小倉）



下関北九州道路シンポジウム

【中川運河再生】

名古屋 中川運河再生に関連して、愛知県立中川青和高校と港特別支援学校と協働の授業を行っています。3年目となる本年はワークショップ（10月3日）と発表会（12月5日）を行い、高校生の視点で新たなアイデアをもらいました。この取組みは、地元紙にも大きく取り扱われました。

【中日新聞 2025年11月17日】



12/5 発表会（中川青和高校）

【地域ブロック総合開発計画】

北海道・畿北・四国・沖縄の4地域のWGで、地域ブロック単位で複数のプロジェクトを検討しました。昨年12月にSDGs時代の新たな地方活性化提言を発表・シンポジウムを行い、本年3月には4ブロック提言を纏めて進藤会長から中野洋昌国交大臣（当時）に手交しました。

また、新たな地域として山陰ブロックの検討を開始しました。

11月21日には松山市で四国ブロックシンポジウムを開催しました。

<委員長・WG長>

北海道 石井吉春 北海道大学大学院客員教授

畿北 須野原豊 東洋建設顧問

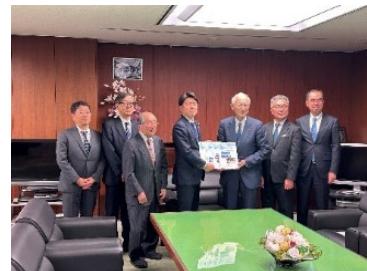
四国 大内雅博 高知工科大学教授

沖縄 羽藤英二 東京大学教授

山陰 井上聰史 元政策研究大学院大学教授

●提言手交

25年3月：4ブロック提言 中野洋昌国交大臣



中野国土交通大臣への提言手交

●シンポジウム開催

25年11月：四国ブロック（愛媛県松山市）



四国ブロックシンポジウム

② 国土創生プロジェクト委員会

石田委員長（筑波大学 名誉教授）

石田委員長を中心に、有識者を招いた意見交換を継続的に行ってきました。頻度高く委員会とWGの議論を重ね、今年度に新たな提言『小さな道の大きな改革』を吉岡国土交通事務次官に手交しました。（6月20日）。また、国土形成計画の重要なテーマである「地域生活圏」形成の参考とするため、イタリア視察（8/28—9/8）を実施しました。



石田委員長

●提言手交（6月20日）

『小さな道の大きな改革』

具体的には以下の6つの提言を行いました。

提言1：第5種道路（歩車融合道路）の創設

提言2：まちなかの小さな道の「面的な」変革

提言3：学校前の小さな道を変革

提言4：道路空間におけるプライオリティの変革

提言5：まちなかの小さな道のモニタリング基盤の整備

提言6：コミュニティが中心となったまちなかの小さな道のマネジメント



提言手交の様子



●委員会開催（2025年）

1月：『公共ライドシェア「ノッカル」から始まる挑戦～生活者一人ひとりが住みみたい場所に住み続けるために～』

博報堂 テーマビジネスデザイン局 局長補佐 畠山 洋平様

2月：『筑波研究学園都市からスーパーサイエンスシティへの挑戦』

筑波大学 システム情報系長・教授 鈴木 健嗣様

3月：『交通事故死者ゼロ社会をめざして』

本田技研工業 チーフエンジニア 笹渕 洋治様

4月：『小さな道の大きな改革—安全で賑わいある人を中心のまちなかの小さな道—』

石田委員長

9月：『イタリア視察報告』

石田委員長、東京科学大学 教授 真田純子様

筑波大学 システム情報系長・教授 鈴木 健嗣様 他視察参加者7名

10月：『熟れたおとのまちづくり～高知県仁淀川町の事例～』

NPO 法人フレイルサポート仁淀川 理事 小松 仁視様

12月：『自動運転のグローバルトレンドと日本の現状』

PwC グローバル自動運転リーダー／ディレクター 藤田 裕二様

●イタリア視察（8月28日—9月8日）

下記の都市と地方を巡り、様々な地域再生の具体例を学びました。



視察箇所



ミラノ大学 (持続可能な地域づくり)



ラ・モッラ (地方の食とワインのイベント)

③ 広域地域経営委員会

千葉委員長（パシフィックコンサルタンツ取締役）

地域課題解決のための広域的な地域経営の在り方について、令和3年より福島県双葉地域8町村をモデルとして検討を行っています。

引き続き双葉地方町村会が主導する「ふたばまるごとサッカーの聖地化プロジェクト」へのオブザーバー派遣や、るるぶ作成のサポート活動も行いました。また、広域的な地域経営のモデルを検討中です。



千葉委員長

●広域地域経営委員会開催（3月・7月）

3月 『日本版シャットベルケとケーブルテレビ事業の可能性』

広島修道大学人間環境学部 白石 智宙 様

7月 令和7年度活動方針について（取組み/ワーキング設置など）



委員会の様子

●広域連携活動を行う地域との協働・オブザーバー派遣（1月）

双葉地域で開催されるインターハイ男子サッカー競技開催受入に対応する双葉地方町村会の「ふたばまるごとサッカーの聖地化プロジェクト」へのオブザーバー派遣依頼に対応。また、これを契機とした「るるぶ双葉地域」の刊行に向けてアイデアや情報を持ち寄るワークショップへも参加者を派遣しました。



るるぶ双葉郡ワークショップの様子

●広域連携活動を行う地域との協働により『るるぶ双葉郡』を発刊（7月）

委員会の提案を契機として、福島県双葉地方町村会から旅行情報誌「るるぶ特別編集福島県双葉郡」が発刊されました。編集にあたっては双葉地方町村会と（株）JTBパブリッシングが中心となり、オブザーバーとして委員会メンバーも検討に積極的に参加致しました。

同誌は4万部作成され、福島県内の公共施設や道の駅・宿泊施設などの旅行関連施設の他、東京の蔦屋書店（六本木、目黒、丸の内）や日本橋のアンテナショップ、東北常磐道のサービスエリアなどでも配布され、良い評判をいただきました。



④ 水循環委員会

川崎委員長（前田建設工業 顧問）

激化する気候変動とカーボンニュートラルに備え、先進的な降雨予測を活用し、治水対策の強化と利水(水力発電)の増強を共に実現することを目指し、活動しました。このパラダイムシフト推進に向け、新たに生まれる利水のメリットを深掘りするため、発電以外の「利水」(農業用水・水道用水・工業用水)の現状と課題整理をしています。下水道の排水に関する現状と課題も整理し、流域総合水管理のあり方、民間活力の活用および更なる水力発電の促進策の検討を行いました。

また、本年は「ダム群活用タスクフォース」にて、「気候変動に向けたダム群ポテンシャルの最大活用」の提言を国土交通省 廣瀬技監へ手交しました。



川崎委員長

●提言手交

10月：政策提言手交

『水循環委員会ダム群活用タスクフォース』

提言： 気候変動に向けたダム群ポテンシャルの最大活用
～利根川ダム群の統合運用と再編をモデルに～

1.ダム群の容量再編、容量の多目的化による治水・利水機能の強化

～個別最適から全体最適へ 危機管理容量の創設

2.降雨・洪水予測の導入によるダム操作の最適化

～予測技術の導入による治水・利水機能強化

3.利根川流域をモデルに治水・水力発電ポテンシャルの評価



提言手交の様子



●幹事会開催

5月：『下水道事業におけるW-PPP推進と流域単位での上下水管理について』

インフロニア・ホールディングス(株) 総合インフラサービス部 部長 大塚 淳 様

『水道分野でのWPPPの現状、課題』

(株)日水コン インフラマネジメント本部 技師長 下畠 隆二 様

6月：『利水の新たな水循環の構築について』

インフロニア・ホールディングス(株) 総合インフラサービス部 部長 大塚 淳 様

『広域型WPPP等への支援策』

(株)日水コン インフラマネジメント本部 技師長 下畠 隆二 様

9月：『水力発電の脱炭素社会実現への貢献における課題解決に向けた提言』

一般財団法人 新エネルギー財団新エネルギー産業会議

副会長兼専務理事 小井澤和明 様

10月：『補助ダムの未利用容量を活用した増電の検討』

株式会社ニュージェック 特別顧問 シニアアドバイザー 岡本政明 様

⑤ 防災委員会

河田委員長

(関西大学 社会安全学部社会安全研究センター長・特任教授)

昨年度から新テーマである「首都直下地震時に想定される長期広域停電対策」についてワークショップを通じて、そのリスクと影響を洗い出し、具体的な対策に向けた検討を行ってきました。政府による「防災庁」の創設実現も見据えつつ、提言に向けた準備を進めていきます。



河田委員長

●委員会開催

- 25年3月 :『防災庁の創設実現に向かって』
- 25年6月 :『防災庁創設の準備状況について』
- 25年9月 :『新設予定の防災庁に関する最新状況』
- 25年12月 :『地球温暖化に伴う災害多発・激化現象への対策』



委員会の様子

●ワークショップ開催(毎月)



ワークショップの様子

⑥ 海洋資源事業化委員会

高島委員長 (三菱商事 元副社長)

海洋産業の振興と海洋資源開発の促進をテーマに活動を行っています。地政学リスクの高まりと我が国の資源・エネルギー安全保障が叫ばれる中、昨年はリチウムイオン電池の正極材に使用される重要鉱物のコバルト、そのコバルトを含む海洋鉱物資源であるコバルトリッチクラストの早期開発に向け、提言を手交しました。今後も産業界のニーズおよび生産技術・事業化・環境等の各種課題と解決策を提言し、早期の産業化さらには商業化への気運を高めていきます。



高島委員長

⑦ 首都圏グローバルハブ空港研究会

山崎委員長（中央大学 経済学部教授）

急増するインバウンドの受け入れ対応を中心に、成田・羽田空港を中心とした首都圏空港容量拡大に向けた在り方について、国の整備方針を踏まえた上での提言へ向けて活動を行ってきました。

今年は、成田国際空港（株）の『新しい成田空港』構想をヒアリングしましたが、成田国際空港の今後の方針を踏まえながら、空港内整備といったハード面やソフト面での容量拡大について検討していきます。



山崎委員長

7月：第38回 研究会開催

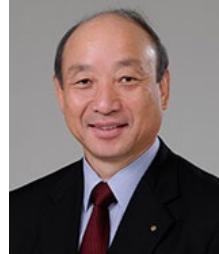
「新しい成田空港」の構想について

⑧ 水素サプライチェーン整備委員会

青山委員長（グリーンパワーインベストメント 専務執行役員）

前委員会の天然ガスインフラ整備・活用委員会では、世界の政治・エネルギー情勢を踏まえて、カーボンニュートラルの構築に向けて風力発電、水素の役割について研究を行いました。

昨年4月に前委員会を改組し、「水素サプライチェーン整備委員会」を立ち上げ、24社が参加しています。風力発電の余剰電力を活用した水素製造、搬送、供給のサプライチェーンについて検討を行っています。



青山委員長

●委員会開催

3月：『グリーン水素事業の概要と今後の課題』

中部電力 グローバル事業本部

専務執行役員 グローバル事業本部長 佐藤 裕紀 様

9月：『世界のエネルギー転換と日本と、水素』

九州大学カーボンニュートラル国際エネルギー研究所

招聘教授 広瀬 雄彦 様

12月：『洋上風力発電事業の現状と今後について』

グリーンパワーインベストメント

専務執行役員 青山 伸昭 委員長



委員会の様子

⑨ 環境委員会(ブルーカーボン研究会)

桑江委員長（港湾空港技術研究所 沿岸環境研究領域長）

CO2 吸收源として、海洋におけるアマモ等を活用したブルーカーボンの具体的取組みについて勉強を重ねてきました。

藻場を造成することによる CO2 の吸収以外でのコベネフィット（漁場形成、環境教育、防災等）の価値を明らかにするために、民間企業 5 社が参加し、各社の具体的取組現場を対象に馬奈木九州大学主幹教授（aiESG 代表）とともに検討を行っています。今年度は一般の方向けにアンケートを実施しブルーカーボンの価値について検討を行っております。



桑江委員長

●委員会開催

3月：「ブルーカーボンコベネフィット評価検討」の取組について

『コベネフィット評価の中間報告』

(株) aiESG CEO 関 大吉 様



委員会の様子

●検討会の開催（2月、3月、6月、9月、10月、11月）

⑩ 林業復活・地域創生を推進する国民会議

宮下会長（竹中工務店 元特別顧問）

鍋山主査（日本経済研究所 コンサルティングフェロー）

国民会議に向けた WG 活動を継続的に開催しています。WG では、専門家の方々の招聘によるご講演を頂き、ご講演後は、参加者と質疑応答や意見交換など活発な議論を行っております。昨年10月に国民会議を開催しましたが、次回の開催に向け、WG では新たに有識者を招いて意見交換を行うとともに、先進事例の視察も実施しました。



宮下会長



鍋山主査

●委員会開催

3月：当年の活動に向けたコアメンバー会議開催

7月：『森林の持つ多面的価値について』

東京農業大学 地域環境科学部 教授 橋 隆一 様

9月：『森林信託の実務と課題、国内森林ファンドの可能性』

三井住友信託銀行 地域共創推進部長 須藤 正憲 様

11月：『福岡県・大分県先進事例視察』



視察の様子

⑪ 森林再生事業化委員会

酒井委員長（東京大学 名誉教授）

「伐って、使って、植える」循環型林業の構築・発展に向け、活動を行っています。年初より各委員が提言に向けた作業を行い、「持続可能な林業の普及拡大」「林業 DX（デジタルツイン）の推進」「スマート林業の実装と災害対策」「木材利用の促進に向けた取組」を軸とする提言を取りまとめ、6月6日に林野庁の青山長官に手交しました。来年の提言に向け検討を継続しています。



酒井委員長

●提言手交

6月：『伐って、使って、植える』循環型林業の実現に向けて



青山長官への提言手交

●委員会開催

2月：『森林資源から化成品原料を創生する改質リグニンの可能性』

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

新素材研究拠点長 山田 竜彦 様

5月：『J-クレジット・森林プロジェクト方法論の背景・実際・課題』

東京大学農学生命科学研究科 龍原 哲 様

8月：『国産材：付加価値の向上と輸出スキームについて』

丸紅木材株式会社 清水 文孝 様

12月：『スマート林業の実現に向けて－森林総研林業工学分野の取り組み』

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

九州支所 産学官民連携推進調整監 吉田 智佳史 様

●現地視察

10月：広島県 三次・庄原地域視察

広島県林業技術センター、庄原市の林業施業地、コウヨウザン展示林などを視察



現地視察の様子

⑫複合観光事業研究会

美原主査（美原融事務所 代表取締役）

国内での複合観光（IR）導入に向けた課題・手法等につき研究を重ねています。2023年4月の大阪府区域認定をうけ、IR実現に向けて残された課題を抽出し、検討・提言を行っていきます。また、カジノ管理委員会、観光庁との意見交換も継続していきます。



美原主査

●委員会開催

25年1月：日本MGM社との意見交換会

25年1月：カジノ管理委員会との意見交換会

●意見交換

25年9月：観光庁村田長官訪問

⑬日本・ミャンマー産業交流検討委員会

高島委員長（三菱商事 元副社長）

ミャンマーでの軍事クーデター以来、日本企業によるビジネス再開は不透明な状況が続く中、現地に詳しい方の話を聞く等、継続して状況把握に努めました。



高島委員長

25年9月：委員会開催

⑯関西委員会

矢ヶ部委員長（日本製鉄参与 大阪支社長）

2025年大阪万博の先を見据えた「大阪環状ベイエリア構想」について、関西の目指す姿を描き出す提言を今年の11月14日に矢ヶ部委員長より齋藤国土交通省近畿地方整備局長へ手交しました。引き続き、新たな提言策定に向け、幹事会を開催する予定です。



矢ヶ部委員長

●提言手交

『自然資本で再び輝ける新たな拠点へ～大阪環状ベイエリア構想～』

具体的には以下の6点を提言しました。

- 提言1 水運振興による親水機会の拡大と施設整備
- 提言2 グリーントランジットGXの推進
- 提言3 藻場の再生等、自然共生エリア拡大による環境改善
- 提言4 分散型、フレキシブルな滞在施設の充実
- 提言5 湾岸道路の充実による効率的、機能的な物流幹線の整備
- 提言6 脱炭素時代にふさわしい物流幹線・ネットワークの構築



提言手交の様子



●幹事会開催

25年6月：提言取り纏めに向けた議論を実施。

⑯中部委員会

鍋田委員長（中部電力 取締役副社長執行役員）

中川運河開発を1つの軸としながら定期的に幹事会で議論を重ねてきました。中部委員会の提言書として、『さらなる中部圏発展に向けた名古屋の魅力向上～名古屋スーパーマグネット構想～』を取りまとめ、今年の3月18日に鍋田委員長より伊藤大名古屋市住宅都市局長に手交しました。引き続き、新たな提言策定に向け、委員会（春季：6月5日、秋季：12月8日）・幹事会（8月7日、11月7日）を開催し、議論を深めています。

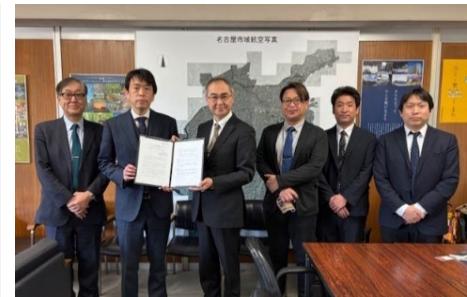


鍋田委員長

●提言手交（3月18日）

具体的には、以下の3点を提言しました。

- 提言1 美しく豊かな南北軸の形成 『Nagoya Super AXIS』（本町通り及び中川運河の再生）
- 提言2 新たな公共交通ネットワークの充実とモビリティハブの設置
- 提言3 既存の地下空間と地上を繋ぐ、開放感と連続性のある空間の形成



提言手交の様子

●委員会（春季、秋季）

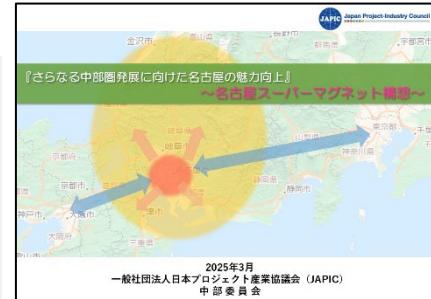
6月：『中部圏の課題と戦略』

国土交通省 中部地方整備局長 佐藤 寿延 様

12月：『中部が築く “技と文化” の都市力

ーからくり人形からロボットへー』

名古屋国際工科専門職大学 教授 佐藤 久美 様



2.オンライン講演会

本年は3月、5月、6月、9月、10月、12月に実施しました。

今後も2～3ヶ月に1度の開催を予定しています。

●第20回

3月：『第7次エネルギー基本計画を読み解く』

日鉄テクノロジー株式会社 顧問 小野 透 様



●第21回

5月：『GXから見た経済と社会の方向性（環境政策というソリューション）』

環境省 顧問 和田 篤也 様



●第22回

6月：『「新しい成田」空港構想について』

成田国際空港株式会社 執行役員 本宮 進一郎 様



●第23回

9月：『令和7年版防衛白書について』

元 防衛事務次官 前 内閣官房副長官補 鈴木 敦夫 様



●第24回

10月：『建設業の長期ビジョン2.0』

(一社) 日本建設業連合会 事務総長

元外務省 駐ホンジュラス特命全権大使 中原 淳様



●第25回

12月：『スマートモビリティの追求～SIP

「スマートモビリティプラットフォームの構築」が目指すもの～』

筑波大学名誉教授 学長特別補佐 石田 東生 様



3.大学連携講義

筑波大学と神戸大学において、「グローバル人材の育成」に向けた「社会基礎学」の講義を行いました。第一線で活躍する、多彩な講師にご登壇頂きます。

① 筑波大学

●社会基礎学Ⅰ（2025.5.24～7.5）講師

森 昌文	内閣総理大臣補佐官
原田 文代	日本政策投資銀行 常務執行役員
三好 忠満	日本製鉄 執行役員
青木 健至	防衛省 人事教育局長
定岡 祐二	みずほ銀行 執行役員 他



●大学院共通科目（春 2025.5.21～6.18、秋 10.8～12.3）講師

高原 勇	CYBERDYNE 取締役
平井 龍太郎	双日 顧問



パネルディスカッション



講義風景

講義パンフレット

② 神戸大学

●社会基礎学（2025.6.14～7.26）講師

細見 研介	ファミリーマート 代表取締役社長
栄森 剛志	住友生命保険 取締役代表執行役専務
奥森 清喜	日建設計 取締役常務執行役員
牧村 和彦	計量計画研究所 理事 他
遠藤 友美絵	双日 執行役員



講義パンフレット



パネルディスカッション



講義風景

4.その他

① 新年賀詞交換会

令和7年1月10日(金)、ホテルグランドアーク半蔵門にて令和7年JAPIC新年賀詞交換会を開催し450名に及ぶご出席を賜りました。

当日は、政界・官界・会員企業他、多くの関係者にご参加を頂きました。

ご来賓：吉井章国土交通大臣政務官、竹内真二経済産業大臣政務官

ご臨席：齊藤鉄夫前国土交通大臣、齋藤健前経済産業大臣、山際大志郎元経済再生担当大臣、黄川田仁志元内閣府副大臣、阿達雅志総務副大臣



進藤会長 年頭挨拶



会場の様子

② フューチャー21(若手勉強会)

令和7年9月19日(金)、鉄鋼会館にて第23回フューチャー21(若手勉強会)を開催致しました。前回の2019年からコロナ禍を挟んで6年ぶりに開催し、総勢62名の若手(45歳以下)の皆様にご参加を頂きました。当日は(一社)計量計画研究所、理事の牧村和彦様より、「モビリティ革命とMaas」についてご講演を頂戴し、講演終了後は同会場にて懇親会を行いました。

引き続き、4~6ヶ月に一度の開催を予定しております。



ご講演の様子



懇親会の様子

③ SNS開設

JAPIC公式のX(旧ツイッター)を開設しました。

随時情報を掲載して参ります。

是非フォローサー。

x.com/japic_jpn?s=11

